

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

138号
発行2019.11.20



発行所：一般社団法人
高知県作業療法士会 広報局
事務局：〒780-0822
高知県高知市はりまや町1丁目5-29
マンハッタンビル6階
<http://kochiot.com>

発行 平松 真奈美
編集 森 祐輔

第2回地域作業療法研修会を振り返って

実行委員長 地域包括推進部 介護予防班 林 邦行 (リハビリテーション病院 すこやか本社)



林氏 谷川氏 細川氏

今回、地域包括推進部の研修企画として“第2回地域作業療法研修会”の運営に携わる貴重な機会をいただきました。日本では2025年を目途に“地域包括ケアシステム”の構築を目指す社会的な大きな流れの中で、リハ職への期待は大きく、それは職域の拡大に繋がる可能性を大いに感じさせるものです。その中でも、自立支援や介護予防といった取り組みに対して作業療法士の

専門性は社会のニーズによりマッチした職種といえます。一方で、士会員の過半数(80%以上)が医療の現場で働く中で地域への参画だけでなく、医療から地域へシームレスに繋げる、あるいは退院後の生活に成果を出すことは必要不可欠といえます。

今回の研修では、様々な研修会との兼ね合いもあり、3か月程度の期間の中で企画することになりました。そのため、主たる講師や場所などを手配すること自体ができるのかという不安が運営メンバーの中でありました。しかし、多くの方々の協力をいただき、テーマである“地域につながる作業療法をしていますか?”について考えていただける良い機会になったのではないかと考えております。私自身も地域包括推進部の介護予防班として活動していく中で、作業療法士が地域包括ケアシステム等の枠組みの中で位置づけられているとはいえ、まだまだ何を専門として行うリハ職かということが、行政の方やケアマネ等にご理解いただけていないことが多いのではないかと感じることもありましたが、それは私たちが多職種を理解することと同じように、自分たちも病院というある意味閉鎖された中だけでなく、社会(地域)に目を向け、そこで作業療法士という専門職の特性を発信していく努力が必要だと感じるものでした。今回の講師の谷川真澄氏や細川忠氏をはじめ、実践者報告を下された方々は、作業療法士として地域に貢献しようとする医療・福祉職以外の行政やその他の職種とも積極的にコミュニケーションを図り、ある意味、作業療法士の職域を守るあるいは拡大に寄与されている方々ばかりでした。私も病院勤務で地域との直接的な関わりは非常に少ないですが、病院を退院され、その方が地域へ帰られてその人らしい生活が安心してできるための通過点の役割を果たすためには、帰っていく先の地域について知る必要があり、少なくともその方が困らないようにサポートしてくれる様々な資源や機関に繋げる必要があると強く感じています。介護保険サービスの充実も素晴らしいことですが、それ以外の総合事業や社会資源、地域独自の活動拠点等に繋げることも非常に重要ということも今回改めて学ぶことができました。それに加え、地域で要請があれば専門性を活かし、介護予防や自立支援を促進できる取り組みに積極的に参画していきたいとも思っております。是非、士会のみならずにもお力をお借りしたいと思っておりますので、関わってみたいと思われる方は地域包括推進部までご一報下さい。

最後に、今回の研修では多くの方の助けをいただき、誠にありがとうございました。運営にあたり、不十分な面が多々ありご迷惑をお掛けしましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

第16回高知県作業療法学会の開催について 2月29日(土)

学会長 二宮 康公 (宿毛市立特別養護老人ホーム 千寿園)

この度、第16回高知県作業療法学会を令和2年2月29日にて開催する運びとなりました。今回の学会テーマを「ここが私のふるさとやけん～自助力を支える作業療法～」とし、少子高齢化・人口減少先進県である高知県の作業療法士が地域にどのように寄与することができるのか?それを紐解く機会になればと考えております。

基調講演のパネルディスカッションには行政関係者にもご登壇いただき、地域で求められる作業療法士の役割について再考したいと考えています。また、特別講演には四万十河畔で在宅医療に取り組んでおられる小笠原望氏(医療法人関の会 大野内科理事長)をお招きし、「いのちと死」をテーマにご講演いただく予定です。その他、一般演題・ポスター発表も企画しておりますので、皆様お誘い合わせてのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人 高知県作業療法士会
会員数 757名(令和元年10月末現在)

第2回地域作業療法研修会に参加して

森 祐輔 (だいいちりハビリテーション病院)

今回、第2回地域作業療法研修会に参加しました。谷川氏や細川氏、実践報告者の方々の講演を聴く中で、地域で生活する患者様にとって必要の生活行為とは何か、地域で自立した生活を送るためにはどうしたらよいか、などの視点をもって関わるのが、あらためて大切なことだと感じました。

自分自身、医療領域で働いており、地域作業療法研修会についても興味はありましたが、病院での作業療法にどのようにその視点を用いるかについては、十分に理解できていない部分がありました。今回の研修会を通して、地域での作業療法とは総合事業や地域ケア会議などへの作業療法士の参画だけでなく、その視点を持つことは、働く領域に関係なく、患者様の生活をイメージし、その地域での参加や役割についての視点を広げるためにも重要だと感じました。

今後は、患者様と関わる際に、より「生活する地域での活動と参加とは」を意識し、地域で長く生活できるように考えていきたいと思えます。

第1回 特別支援教育部研修会を開催して

特別支援教育部 自立活動充実事業担当 高橋 一郎 (訪問看護ステーションおたすけまん)



高橋氏

現在、特別支援教育部では、①特別支援学校の外部専門家活用事業の「自立活動支援事業」、②高知県教育委員会の「巡回相談員派遣事業」、③香南市の「いきいき香南っ子相談会」への相談員の派遣調整を行っています。今後、より多くの会員の皆様が特別支援教育に関わり、また分野を問わず参画していただけるよう、毎年研修会を開催していきます。

今回、令和元年10月5日(土)に高知県立ふくし交流プラザにて、第1回目の研修会を開催し、計23名の参加がありました。今回、講師を務めさせていただき、「特別支援教育について」、「自立活動充実事業～作業療法士の立場から～」として報告しました。さらに、長尾あゆみ氏(高知県立高知若草特別支援学校)をお招きし、「自立活動充実事業～特別支援学校教員の立場から～」と題し、特別支援学校の紹介のほか、自立活動充実事業において作業療法士に期待することなどについてお話していただきました。また、子どもたちの成長を支えていくために作業療法士がどのような関わりができるか、教育・医療・福祉の連携の必要性など中身の濃い内容となりました。

第2回の研修会は、実際の巡回相談場面でのアセスメントの視点、助言内容の実際についてお伝えしたいと考えています。発達障害分野における作業療法へのニーズは大きく、携わるセラピストが不足しているのが現状です。興味関心のある方は、是非第2回研修会への参加をお待ちしています。

財務部から県士会費に関するお願い

事務局 財務担当 橋田

士会活動は、会員の皆様の会費により運営されています。大半の方が、届け出先の四国銀行からの一括引き落とし(手数料:士会)になっており、一部の方と、新規入会者(1年目)に関しては、郵便局からの振込み(手数料:個人)となっております。

現在、研修会の数も増えてきており、令和2年度からは、4月以降研修会を開催する予定ですので、現在、6月末の会費引き落としを5月末に変更する予定です。

研修会の参加時には協会の入金確認(該当年度の会員証にて確認)、県士会費の納入確認が必要となりますので、引き落としの連絡、振込み依頼の文書がお手元に届きましたら、速やかな会費の納入をお願いいたします。

会費に関して、ご不明な点などございましたら、会費に関する問い合わせ先メールアドレスkochi.ot.kaihi@gmail.comまでご一報ください。

尚、問い合わせ時には、職場名、協会会員番号、氏名を必ずご記入ください。

第30回四国学会で発表をして

中川 絵梨花 (いずみの病院)



左 北村氏 右 中川氏

今回、「疾病管理が不十分で慢性心不全の増悪を呈した症例との関わり」について発表しました。近年、心血管疾患への作業療法へのニーズは高まっている一方で、病態を理解したうえで負荷量を調整し、生活行為をマネジメントすることは容易ではなく、日々奮闘しながら働いています。

発表までの準備では、症例との関わりを限られた時間内で聞き手により分かりやすく伝えるようにまとめる作業が大変でしたが、考えが整理され、介入して得た結果や今後の課題が明確になり、これからの関わりに繋がる良い経験となりました。発表の時には、緊張して上手く質問に答えられなかったのですが、皆様からのご意見をいただいたことで視点も広がり、とても実りある発表となりました。

北村 薫子 (いずみの病院)

今回、「CI療法の臨床における原則を取り組み、日常生活への麻痺側上肢の使用が向上した一症例」の演題を発表することができました。CI療法が、患者様の「受傷前の状態に戻りたい、もっと上肢を動かせるようになりたい」という行動変容に繋げるきっかけとなりました。OTの役割は、CI療法を提供する中で、実生活場面で麻痺側上肢の使用を促し、上肢機能が向上したことを実感できるように働きかけ、モチベーションの維持を支援していくことだと感じました。発表する際は、単にCI療法の効果を報告するのではなく、どのように支援していたのかを自分の言葉で伝える努力を大切にしました。相手に伝えたい、理解してもらいたいと思い、スライド構成や端的な言葉での説明に工夫したことは良い経験となりました。

今後も作業療法を楽しみながら、臨床を頑張っていきたいと思えます。

事務局移転しました!!

(一社)高知県作業療法士会 事務局長 矢野勇介

この度、令和元年9月30日、下記に事務局を移転することとなりましたのでお知らせいたします。新事務局になり、FAX番号も変更になっておりますのでご注意ください。

新事務局は、以前と比べてスペースが広くなり、ご来訪いただく皆様にも十分ゆったりとしたスペースをご提供できるようになりました。また、高知市の中心部に位置しアクセスもよくなりました。新事務局では、少人数(20名～25名)での研修会(士会主催に限る)なども開催できるよう事務局内を整備しております。お気軽にご相談ください。

<新事務局>

〒780-0822 高知県高知市はりまや町1丁目5-29 マンハッタンビル6階

FAX:088-821-7686

E-mail:info@kochiot.com

HPアドレス:http://kochiot.com/

